聖徳大学　公認心理師入学説明会　模擬講義　　令和５年９月10日

◎「感情・人格心理学」から

－パーソナリティ検査ってどんなものがあるの？－

担当：聖徳大学兼任講師　公認心理師・ストレスチェック実施者

T-time 心理ラボ代表　大石武信

◎パーソナリティ検査

○**検査**⇒一定の刺激に対する反応ないし行動のサンプルを一定の尺度やカテゴリーシステムによって測定・評価するための系統的手順。

◎検査の条件

1)実施の手順や採点の方法，さらに分析の方　法の仕方などが定まっている。

＝マニュアル化されている。

2)**信頼性**（測定の正確さ）や　**妥当性**（尺度の有用性）が確認されている。

○この条件を満たすためのプロセス⇒検査の**標準化**という。

◎現在，対人評価や援助に関しては，EBA（Evidence Based Approach)的に行うようになっている。

⇓

○パーソナリティ検査を選択する際にも，なぜその検査を実施するのか？

○そこからどのような情報を得られるのか？

などの根拠が必要

○信頼性と妥当性はその１つの目安になる

◎質問紙法

・一定の質問項目に対して「はい」「いいえ」などで自己評定させ，それによって被検者の特徴を明らかにする方法。

・「意識的，自己概念的な水準」での把握

◎YG 性格検査

○人間の性格を形成する 12 の特性の強弱により表されたプロフィールをもとに性格のタイプ分類。

○120 項目と項目数が少なく，分析も容易。

○妥当性尺度がないために回答の歪曲が生じる可能性がある。

◎MPI（モーズレイ性格検査）

○**アイゼンク．H, J.** が作成したパーソナリティ質問紙検査。

○下位次元として，社会的外向性（E）と神経症的傾向（N）がある。

○他に回答の妥当性尺度である虚偽性尺度（L）がある。

○後には精神病性尺度を含めた検査も出されている。

○この検査は E 尺度・N 尺度それぞれ 24 項目からなり，施行しやすく，短時間で回答ができる。

◎MMPI（ミネソタ多面人格目録）

○ハサウェイ,S.R.とマッキンレイ,J.C.により開発。

○代表的な精神疾患名となっている 10 の**臨床尺度**と回答の歪曲や妥当性を検証するための 4 の**妥当性尺度**で構成。

○項目数は全部で 550

○この検査の特徴は，健常群と臨床群を弁別可能かどうかという客観的・経験的アプローチをとっている点にある。

⇒臨床尺度は群間で有意差が認められた項目で構成されているので，スクリーニング検査として大きな意義がある。

〇また，妥当性に関する尺度を備えていることで，他の質問紙検査と比べると回答の歪曲が起こりにくいという長所。

〇項目数が多いために労力がかかる，分析が複雑であるといった短所もあり，日本ではあまり使用されていないのが現状。

第 1 回　公認心理師　国家試験　午後問題

問 109 MMPI ｛ミネソタ多面的人格目録（Minnesota Multiphasic Personality Inventory)｝について，誤っているものを 1 選べ。

① MAS は，MMPI の項目から作成された。

② 妥当性尺度とは，？尺度，L 尺度，F 尺度及び K 尺度の 4 つを指す。

③ 質問項目は 550 項目あり，実施時間は 1 時間以上を見込む必要がある。

④ 質問項目は，患者群と非患者群との間の統計的有意差を基に作られている。

⑤ 心気症，抑うつ，緊張などの各傾向を測定する 20 個の臨床尺度から構成される。

⇒

◎作業検査法

・一定の作業を課し，その作業の過程や結果から被検者の特徴を把握しようとする方法。

・「無自覚的，行動的な水準」での把握

◎内田クレペリン精神作業検査

〇クレペリン, E. の精神作業研究を基に，内田勇三郎が開発した検査。

〇実際に多くの場面で使用されている唯一の作業検査法といってよい。

〇一桁の数の単純加算作業を，１行１分とし，５分の休憩を挟んで前半・後半 15 分ずつ行う。

〇作業曲線に影響を及ぼす精神機能の働きとしては，意志緊張・興奮・慣熟・練習効果・疲労の５因子。

e.g. 安全監視，などの適性検査として使用されている。

・電車の運転手などは，免許の更新のたびに実施される。

・パフォーマンスが大きく変動するような人は向いていないというような判断になる。

〇実施した際の状況などにより，大きな誤差が作業曲線に表れることから，同検査にはほとんど意味がないとする研究者もいる。

◎投影法

・一定のあいまいな刺激に対し，被検者の個性的な反応が投影されることを利用して，人格のより深層の特徴を明らかにしようとする個別的な検査方法。

・「無意識的，イメージ的水準」での把握

・他の検査以上に熟練と臨床的洞察力を要する＝主観的な解釈が入り易いという

欠点。

・意識下での反応傾向も推察できる。

◎ロールシャッハテスト

○ヘルマン・ロールシャッハにより考案された投影法を代表する検査。

○紙の上にインクを落とし，それを 2 つ折りにして広げることにより作成されたほぼ左右対称の図版を持つカードを使用。

○現在でもロールシャッハによって作成された，10 枚 1 組のカードを使用。

○無彩色（黒のみ）のカードと有彩色(黒・赤 2 枚，赤・黄・青 3 枚）のカードがそれぞれ 5 枚ずつ含まれる。

○各カードは約 17cm x 24cm の大きさを持つ。

○検査対象者にとって，どのように反応するとどのように分析されるかが分かりにくい

⇒回答を意識的に操作する反応歪曲が起きにくい

⇒無意識な心理の分析が可能であるとされる。

⇒1920 年代に開発されて以来，長年に渡って広く用いられている。

○一方，検査の妥当性への疑問や回答結果の分析に高度な技術を要し効率が悪いといった批判も存在する。

◎TAT（主題統覚検査：Thematic Apperception Test）

○**マレー**, H. A.と**モーガン**, C. D.（1935 年）によって開発された投影法検査。

○**マレー**の**欲求－圧力（need-press)理論**を基礎。

○“欲求 －圧力の力動的構造 ＝「主題」”

⇒空想的物語に，検査対象者の主題が投影されると考える。

○日常的葛藤場面が書かれたカード３０枚と，空白のカード１枚で構成。

○そのうちの１１枚は共通カード。

○残りの２０枚を年齢や性別によって選択。

●本来ロールシャッハテストと並ぶ投影法検査の不動の 2 トップであるが，マレーの欲求－圧力理論の不完全さや，実施や解釈に高度なスキルが求められることから，現在の心理臨床の場面で利用されることはきわめて少ない。

○第１回　公認心理師　国家試験

問 115 TAT の実施と解釈について，正しいものを１つ選べ。

① 臨床場面での投影法検査として，L. Bellak による解釈法と分析法が標準である。

② 決められた順序に従って全ての図版を呈示することによって正確な解釈が得られる。

③ G. W. Allport が標準化した欲求－圧力分析による解釈法を基本に，被検者の対人関係の主題を読み取る。

④ 被検者には各図版を見てストーリーを構成することが求められるため，物語を通して主題を把握することが解釈において重視される。

⇒

◎SCT（文章完成法）

○SCT では，あらかじめ書かれている未完成の刺激文の続きを，思い浮かぶまま自由に記述してもらう。

○書かれた内容には，自己概念や対人関係，家族関係などが投影されると考えられており，これらを通じて，クライエントの状態，パーソナリティを理解していく。

○SCT の長所⇒施行方法が容易，集団に実施可能という他に，質的な情報が得られ

る。

○SCT の短所⇒あくまでも本人の言語表出によるものであるため，深層心理まで捉えることは難しい。

○その他，言語表出能力が必要条件であること，数量化など客観的評価が困難なことがこの検査の限界。

○また，解釈には検査者の習熟が不可欠である。

○SCT は，投影法検査の中では比較的意識に近いレベルの検査と言える。

○そのため，臨床場面において SCT は，単独で利用するよりも，より深層レベルを探ることが可能な別の投影法検査（ロールシャッハテストなど）を併せて用いることが一般的。

⇓

●このように，複数の心理検査を組み合わせ実施することを

テストバッテリーを組むという。

◎バウムテスト

○**コッホ**, K.（1945 年）が発表した，描画による投影法検査.

○A4 版の画用紙と濃い目の鉛筆，消しゴムを用意。

○「実のなる木を 1 本書いてください」という教示をもとに，検査対象者に自由に木の絵をかいてもらう。

○全体的な絵の印象とバランス，根・幹・樹幹・枝葉という 4 部分に関する「形態分析」

○鉛筆の使い方や筆圧に関する「動態分析」。

○空間象徴理論に基づき紙面の上下左右前後をどのように使っているかについての

「空間分析」を行う。

〇長所は，実施が容易であること。また，検査に未熟な者でも，浅いレベルであれば解釈は可能であることなど。

〇短所としては，その解釈体系の科学性，実証性には疑問が残ることなど。

●バウムテストなどの描画法は，無意識に近い領域を探るために用いられるだけでなく，治療においても有効な手段でもある。

●ただし，クライアントに危険を与えるリスクがあることを理解した上での実施が必要である。

第 1 回　公認心理師　国家試験　午前問題

問 16 バウムテストについて，正しいものを 1 つ選べ。

① K. Koch が精神疾患の診断を目的に開発した。

② 形状の年齢的変化では，二線幹のバウムは 6 歳までには減少する。

③ 樹冠の輪郭の有無によって，心理的発達の成熟又は未成熟が把握できる。

④ M. Grunwald の空間象徴理論に基づいて解釈を行うことを基本とする。

⑤ 対人関係や感情表出の特徴を示す指標として，枝の先端の処理に注目する。

⇒

第 3 回　公認心理師　国家試験

問 12　質問紙法を用いたパーソナリティ検査について正しいものを 1 つ選べ。

①検査得点の一貫性のことを妥当性という。

②α 係数は，検査項目の数が多いほど，低い値を取る。

③再検査法では，２時点の検査得点間の相関係数を用い，検査の安定性を見る。

④検査が測定しようとしているものを正しく測定できている程度のことを信頼性という。

⑤検査得点の分散に占める真の得点の分散の割合が高いほど，検査結果の解釈が妥当になる。

⇒

※参考までに　第 2 回公認心理師試験出題心理検査一覧

「HAM-D」

「WMS-R」

「田中ビネーV」

「PARS-TR」

「WISC-IV」

「ベンダー・ゲシュタルト検査」

「ウィスコンシンカード分類検査」

「コース立方体組み合わせテスト」

「CBCL」

「Conners3」

「IES-R」

「Vineland-Ⅱ」

「VRT」

「WPPSI-Ⅲ」

「CAARS 日本語版」

「新版 K 式発達検査」

「日本語版 KABC- II 」

「S-M 社会生活能力検査」

「AQ-J」

「MPI」

「SDS」

「STAI」

「TEG」

「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」

「エジンバラ産後うつ病質問票」

「HDS-R」

「CAPS」

「CPT」

「MMPI」

「Y-BOCS」

「Luria-Nebraska 神経心理学バッテリー」

以上計 32 種が出題。

◎パーソナリティ検査に限らず多くの心理検査がある。

・対象者のどの部分を理解する必要があるのか？

・どのような検査が適切なのか？

・その結果の解釈は正しいか？

・対象者に過度な負担をかけていないか？

・対象者に十分な説明をし，同意を得たか？

など，多くのことを踏まえたうえで実施する必要がある。